

第 21 回 地域まちづくり推進委員会表彰部会 会議録

日時	令和6年 11 月 28 日(木)15:30～17:15
開催場所	横浜市庁舎 18 階 会議室みなと9
出席者	部会委員)室田部会長、片岡委員、加藤委員、高村委員、田邊委員
【敬称略】	事務局)横浜市:古檜山部長、村瀬課長、大嶽係長、三浦、今村
開催形態	公開
議題	(1)第12回 横浜・人・まち・デザイン賞 地域まちづくり部門について(審議) (2)その他

議事

事務局	<p>【開会】</p> <p>定足数について、委員 5 名中 5 名全員が出席されているため横浜市地域まちづくり推進条例施行規則第 22 条第 2 項 及び第 23 条第 4 項に基づき部会が成立していることを報告します。</p> <p>会議の公開・非公開について、本部会は地方自治法第 138 条の 4 第 3 項に規定する附属機関である横浜市地域まちづくり推進委員会の部会に位置付けられており、附属機関の会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条により原則公開となっているため、本日の会議は公開となります。</p> <p>横浜市附属機関の会議の公開に関する要綱第 8 条に基づき、会議録を公表します。本日は傍聴人なしとなります。</p>
事務局	<p>【議事 1】 第 12 回 横浜・人・まち・デザイン賞 地域まちづくり部門について(審議)</p> <p>&lt;事務局より資料 1～4、参考資料 1～4の説明&gt;</p> <p>1 次審査後の通過団体への質問の集約について、メールのやり取りのみではコミュニケーションがスムーズにできない場合は、必要に応じて web ミーティング等を開催したいと思います。</p> <p>また、1 次審査の選考団体数を 7～8 団体にした理由として、1 次を通過してヒアリングは受けたが、2 次で不通過となった場合、モチベーションを低下させてしまうとの意見があったためです。ヒアリングでは実際に話を聞いて、調査票の記載内容と差がないかを確認するような意味合いで行います。前回も一次選考で評価の高かったところが結果的に 2 次選考も通過しているため、団体の負担を考慮すると、1 次審査通過団体数は 7～8 程度で良いと考えました。</p>
室田部会長 加藤委員 事務局 加藤委員	<p>まず、第 12 回のデザイン賞に向けた 1. スケジュールについて意見はありますか。申込団体には選考のプロセスをご説明されていましたか。</p> <p>団体に対して調査票 A の作成を依頼する際に、選考の流れをお伝えしています。個人的には 2 次で不通過になる団体が前回程度あっても良いと感じました。1 次を通れば 2 次もほとんど合格するとなると、2 次選考の意味があまりないと感じます。</p>
室田部会長 事務局	<p>1 次選考と 2 次選考で役割分担は考えていますか。</p> <p>1 次選考は書類で活動内容を確認し、2 次選考は活動されている方たちに直接職員が深掘りをする事で、実態をより把握することを目的としています。</p>
室田部会長	<p>2 次選考では職員が団体からヒアリングをし、職員が審査員に伝える形をとられていて、情報が正しく伝わるかも懸念されていたと思います。こちらも選考数を絞った一つの理由としてありますか。</p>
事務局	<p>例えば 30 年間活動されてきている団体の想いを全て理解し、職員が代弁することは難しい部分もあると考えています。ただこれまでも 1 次選考の通過団体数は特に公表していませんので、団体からすると状況は変わらないと思います。</p>
室田部会長	<p>例えば、7 団体を 1 次で通過させたが 2 次選考で 2 団体が良くない評価だった場合、5 団体しか表彰できない可能性が懸念されますがいかがですか。後から追加するのは難しい部分もあると思います。</p>
事務局	<p>1 次選考の際に応募数等から適宜判断し、2 次選考の結果団体数が足りないことにならないようにしたいと思います。</p>
高村委員	<p>大変ですが、不通過だった団体に、次回に繋がるようどこで表彰団体と差がついた</p>

片岡委員	<p>のかフィードバックする仕組みがあると良いと思います。一度不通過になった団体ももう一度応募されるということがほとんどないかと思います。</p>
田邊委員	<p>第11回の表彰式は、表彰後すぐに解散してしまい、非常にもったいなかったと感じました。特に地域まちづくり部門の方々は様々な横の繋がりを作る貴重な機会だと思います。表彰式の位置付けとして、コミュニケーションができる場の中に表彰があるような位置付けにすると盛り上がると思いますし、表彰の価値が高まると思います。また点数にすると総合評価で点数を取れるところが評価されてしまいますが、表彰された団体と不通過だった団体で、活動の素晴らしさは大きく変わらないと思います。ピンポイントな部分で素晴らしい団体も多くあると思うので、例えば1次通過された団体にも表彰状のようなものをお渡しし、表彰式にも来てもらい、様々な方と交流できるような場が作れば良いと思います。</p>
室田部会長	<p>横浜市では同時多発的に魅力的な活動が起こっており、そういった活動を横に繋いでいくネットワークをどのように作るかも非常に重要だと思います。デザイン賞を、素晴らしい団体同士を繋ぐことのできる、価値のあるコンテンツにするために何ができるかを考える必要があると思います。</p> <p>また先日、別の賞の審査をした際に、全ての団体のもとに審査員全員が足を運んで直接話を聞く機会がありました。大きな負担ではありましたが、審査員にとっても非常に価値のある出会いになりましたし、一方で団体としても、直接専門家から評価を受けることで活動の活力にも繋がられていて、非常に良い取り組みだと思いました。</p>
加藤委員	<p>本賞では直接活動者の話を聞く機会がないため、1次通過団体を減らすのであれば審査員が直接話を聞きに行くことや、団体からプレゼンテーションをしてもらう場を設けることもできるかもしれないと思います。例えばその場をオープンにして、1次審査を不通過だった団体も含めて広く声かけをすることで、様々な方に聞いてもらうのも良いと思います。一方的に賞をお渡しするだけでは物足りないと思います。</p>
田邊委員	<p>まち普請事業の部会委員も経験し、デザイン賞では団体と直接会話せずに受賞者を決めることに驚きました。審査不通過なことを分かった上で会場に来るのはハードルが高いと思うので、受賞者の発表も表彰式の中で行う方法にすると応募者全員が来てくれると思います。会場に来ている方全員が素晴らしい活動をされていることが分かった上で、たまたまこのデザイン賞の5つの審査項目に合致した人が表彰されるという形で表彰式を実施できると、それぞれの活動を知る機会にもなり、交流の場にもなると思います。</p>
室田部会長	<p>一般市民票としてシールを置いておいて、来場者の方に貼って貰うと賞自体には選ばれなくても、賛同してくれる人が数多くいることが見え、頑張ろうと思える原動力にもなると思います。</p>
事務局	<p>従前とは全く異なる実施方法の意見や提案も出ましたが、最終的にどのように収束させるか、事務局としては今後の進め方についてどのように考えますか。</p>
室田部会長	<p>いただいた意見をもとに年度内に事務局で方針について検討を行い、部会委員に改めて相談しますが、最終決定については来年度の次期表彰部会委員で決めたいと思いますので、来年度7月の表彰部会にて改めて伺います。</p> <p>選考については地域まちづくり部門で決めることができますが、特に表彰式は景観部門と合同になり、地域まちづくり部門単独で決められない部分もありますので、景観部門とも上手くすり合わせた上でフィードバックをお願いします。</p>
片岡委員	<p>続いて、2. 選考の進め方について、選考のフローや選考基準等について意見があればお願いします。</p>
事務局	<p>特定の項目に特化した活動をどのように評価しますか。1次審査で7～8団体を点数で評価すると総合力のある団体を選ばれることになるとは思いますが、今後の可能性を感じて応援したいと思う団体も選考できるような仕組みにできればと思っています。3年以上の活動実績を求める条件はそのままが良いと思いますが、3年以上5年以内程度の活動実績の若い団体で、総合力は乏しいが応援したい活動を拾い上げられる仕組みがあると良いと思っています。</p>
片岡委員	<p>人・まち・デザイン賞には地域まちづくり部門と景観部門があり、その中にも本賞と支援賞があるため、さらに部門数を増やすと構造的に分かりづらくなると感じています。</p>
事務局	<p>ある一定の件数は何かの項目に特化した特化型の活動を選ぶと内部的に決めておく方法もあるかと思っています。</p> <p>1次審査で委員から出てきた評価内容によって、選考数や選考対象も調整できるとは思います。</p>

室田部会長	ある審査項目で5点満点をつける委員が1人か2人いれば、その他の項目の点数が低くても1次は突破する価値があるという考え方ですね。
加藤委員	「活動の独創性」以外の項目で何かだけ特化しているという団体はあまりないように思います。他の項目のどれかが優れていた場合、総合点も上がると思われるからです。そのためそういった特化型の賞が出てくる可能性はもしかしたらあまりないのかもしれない。
片岡委員	第10回の寺尾奉行は気になっていました。賞は取れなかったが、すごい活動だと思いい、様々なところでこの事例を紹介しています。今の基準では受賞できる内容ではありますが、他の団体が良ければ相対的に不通過となってしまう可能性もあると思います。
田邊委員	不通過の団体が次回の審査にもう一度応募されないことも課題ですね。
加藤委員	団体からすれば1度落ちた選考に、内容が変わってない状態でもう1度受けようという気持ちにはならないですね。難しいところです。
室田部会長	それでは評価基準はそのままとし、選考方法としては、何かに特化した団体を選考できる方法を反映できればと思います。
加藤委員	特化型の選考方法について、どれかの評価項目で5点満点を獲得することがマストでなくても良いと思っています。例えば委員の2人以上が、良い評価をつけていれば通すというレベル感でないとおそらく5人全員が5点満点をつけるというのは難しいと思いました。単純に点数だけではなくて、例えばそれぞれの委員が任意欄に必ず通したいと思う団体を0～2個記載してもらい、同じ団体を2人以上推していた場合は1次選考を通過させるというようなやり方もできると思います。点数と任意記載項目を並べて、どの団体を1次選考の通過団体にするか委員でディスカッションして選べれば良いかと思いました。
事務局	5つある評価項目のどこかのポイントについて推しなのか、活動全体的に推しなのか委員の皆さんの感覚はどちらに近いですか。
加藤委員	最終的に団体を推す形になると思いますが、推した理由については評価項目の一つのポイントが特化していたからという説明になると思います。
室田部会長	それでは、点数はそれぞれの団体につけ、それとは別途で推す団体を例えば2つ程度設けるような形にするのか、各団体につけた点数の中で例えば2人以上の審査員がある評価項目で5点をつければその団体を推す団体とするのか、2パターンが考えられますね。
加藤委員	今回については、点数ではなく、任意記載欄に特に推す団体がある場合は別途記載する形としておき、各委員がなぜその団体を推すのか理由を共有しながら、1次選考通過団体について検討していくような運用が良いと思いました。推す団体がなければ記載しなくても良いと思います。そのやり方が上手くいけば、次回以降からもう少し仕組み化していけば良いと思います。
事務局	承知しました。
片岡委員	募集の時点で、若い活動にもどんどん応募してほしい旨をパンフレット等で何かメッセージとして発信するかどうかについても今日の部会で議論しておきたいです。
室田部会長	これまでは応募条件のおおむね3年の活動期間が必要であることをどのように発信していましたか。
事務局	横浜まちづくり顕彰事業実施要綱第2条第2号に記載されています。おおむね3年以上の活動実績を求める応募条件自体を変えるのであれば、要綱の改正が必要になります。
片岡委員	要綱を変えてまで前提条件を変える必要はないと思います。ただ、人・まち・デザイン賞のイメージとして、長年活動をされており、総合的に優れている活動が受賞することが多い中で、これからの可能性がある団体に積極的に出してもらえるようなメッセージを出せば良いと思います。
室田部会長	パンフレットやポスターの中に、例えば若い活動や、様々な形で活動に取り組みされているケースを事例として入れることは可能ですか。
事務局	修正は可能です。ただ今までは、何かに特化した活動を多く出してもらうよう促すような記載にはしていないのが現状です。募集の記者発表は4月頃を想定していますが、パンフレット自体は今年度に印刷をするので、発信内容決定の締切りは今年度2月頃までになります。
室田部会長	それでは事務局の方で少し具体的な活動事例をパンフレット等に加える案の検討をお願いします。
田邊委員	また、文章の内容が硬いと思うので、もう少し若い人たちが自分ごとと思えるような記載方法を検討してもらえればと思います。

高村委員	表彰されることが目的ですが、活動自体を知ってもらおうことが目的ということが伝わってこないと思います。このパンフレットを見ても既にできあがった活動に対してすごいとしか感じ取れず、発展途上でも良いので、例えば「あなたの活動をもっと知ってもらいませんか」「活動の仲間を増やしませんか」というメッセージを発信できれば良いと思います。
室田部会長 事務局	良い意見が出ましたのでうまくパンフレット等に盛り込んでもらえますか。 ニュアンスは理解しました。景観部門と一緒に募集を行う関係で、景観部門との協議も必要になりますが、改善案を検討します。
加藤委員	応募した経緯として、市からの紹介と友人・知人からの紹介が圧倒的に多く、友人や知人というのはその多くが過去に受賞された方であることを考慮すると、リーフレットに文言を入れなくても、市役所や区役所の方、過去の受賞者に対して、まちづくり活動をされている方へ簡単に応募の概要を紹介できるようなペーパーを作成して渡しておく方が効果的かと思いました。パンフレットの調整は難しい部分があると思うので是非ご検討ください。
室田部会長 田邊委員	続いて3. 広報について意見はありますか。 昨今、活動されている団体への視察が多く、まちづくりを勉強したい方が多い中で、マネタイズできる視察やツアーを実施できれば良いと思います。例えば広報の際に、以前受賞された方々の場所へ視察に行けるような特別ツアーを、予算を取って実施し、団体にも謝礼をお支払いするような仕組みができれば、いい出会いの場を生み出しつつ、視察対応で疲弊しない持続可能な活動にしていく一助になるかと思います。横浜市ではまち普請の活動も多くあるので、そういったこれまでの蓄積を学ぶ場を、マネタイズできる環境で実施できると良いかと思います。デザイン賞でも、まずは実験として、前年度賞を取られた団体を見学するツアーができれば素敵だと思います。
室田部会長 事務局	また、今まで表彰された団体同士でもネットワーク化等があまりされておらず、非常にもったいないと感じています。 今年度は地域まちづくり推進委員会でも、新たな地域まちづくりの取組を検討していく中で、これまでデザイン賞を受賞された団体にヒアリングを実施したのですが、確かにそういった横の繋がりが欲しいという意見は多くありました。
室田部会長	ぜひそういったネットワーク作りや、団体自身で自由に発信できるようなプラットフォームを設けて自分たちネットワークを作ることができるような環境づくりを進めて、発信力があまりないような団体もうまく取り込めると良いと思います。
室田部会長 事務局	<b>【議事2】その他</b> 最後にその他連絡事項をお願いします。 次回は令和7年1月29日10時より本庁舎18階なみき16・17会議室で景観部門との合同部会を開催しますので参加をお願いします。
室田部会長	それでは第21回横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会を終了します。
<b>資料</b>	
(資料1) 横浜・人・まち・デザイン賞の概要	
(資料2) 第12回 横浜・人・まち・デザイン賞 スケジュール (案)	
(資料3) 第12回 横浜・人・まち・デザイン賞 地域まちづくり部門の進め方 (案)	
(資料4) 第12回 横浜・人・まち・デザイン賞 募集に関する広報について (案)	
(参考資料1) 横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会要綱	
(参考資料2) 横浜まちづくり顕彰事業実施要綱	
(参考資料3) 横浜まちづくり顕彰事業実施細目	
(参考資料4) 第12回デザイン賞審査様式一式	